

氏名	大川 篤志
授与した学位	博士
専攻分野の名称	経済学
学位授与番号	博甲第2501号
学位授与の日付	平成15年 3月25日
学位授与の要件	文化科学研究科産業社会文化学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	近代鳥取県における産業変化と消費構造
学位論文審査委員	主査・教授 下野 克巳 教授 中藤 康俊 教授 内田 和子 助教授 北川 博史 二松学舎大学国際政治経済学部教授 神立 春樹

学位論文内容の要旨

本論文は、近代日本における産業発展とそれに伴う地域経済の変容過程に関する研究の豊富化の一つとして、とくに産業発展の立ち遅れた地域とされる「裏日本」地域形成をめぐる研究の一つでありまた日本経済史学で近年注目されつつある「地域差・階層差を明確にした消費構造」の実証的な研究の一つでもあるということを重視して、それを深め広げる研究作業の具体化として明治・大正期を中心とした時期の鳥取県を対象に考察したものである。本論文は全体を序章から終章にいたる七つの章で構成している。

序章「問題意識と課題」では、近代日本における地域経済の変容過程の研究が深められつつある状況を先行業績を検討しつつ述べるとともに、手薄であった近代日本における消費構造の研究を深めるための視点と史資料の探求と利用の際の注意点および近代の鳥取県を分析対象地域とする意義について述べている。

第1章「産業構成の全国的概観」では、明治・大正期の日本の産業構成の変化を全国および道府県別のレベルで考察してそのなかにおける鳥取県の地域経済の位置付けを、まず「長期経済統計シリーズ」を中心としたマクロ指標の長期的推移を工業化の進展・変化に関連して分析し、つぎに工業化の地域差を念頭に道府県別の物産構成を1880年代末と1919年との二つの時点に注目して分析し、さいごに1920年の第1回国勢調査に基づいて産業構成と就業構造との分析をするという方法で、慎重に行っている。

第2章「鳥取県における主要産業の転換」では、明治・大正期の鳥取県における主要産業の転換過程を県内の地域差にも注意しつつ解明する作業を、まず明治前期までの鳥取県の産業構成を1874年の『府県物産表』やほぼ同時期とされる『府県物産誌』ならびに『鳥取県統計書』などに基づいて考察し、つぎに明治後半から大正期における製糸業などの新しい産業の成長について『鳥取県統計書』と『鳥取県輸出入統計』などに基づいて考察することによって、丁寧に行っている。

第3章から第5章までの三つの章では、主として明治後期の鳥取県で作成された郡是・村是資料とその類似資料の『岩美郡生産力調査書』を利用して、そのメリットである複数の村の諸データがまとまって集計可能であるという内容を生かして、県内における地域差と社会階層差とに注目をしながら分析をすすめている。

第3章「鳥取県の村々における生産・所得」では、第2章で分析した近代の鳥取県の主要産業の変化の中にあって県内の村々における農家副業の考察も含んだ産業構成と所得の水準と構成との分析を行っている。

第4章「鳥取県の村々における消費生活」では、戦前期における消費生活の全国的な概観と論点を整理した上で、鳥取県内の村々における消費の水準や構成の考察ならびに所得水準と消費生活との関連の考察を行っている。

第5章「主食消費の地域性」では、とくに主食消費についてとりあげて先行研究業績を検討・整理した上で、明治初期までと明治後期との主食消費を考察することによって、鳥取県内の村々における地域差を生んだ要因についても検討して、試験的な結論も提示している。

終章「まとめと展望」では、序章から第5章までの分析の要約を行うとともに新潟県蒲原郡を対象とした「裏日本」研究などと対比しつつ今後の課題についても述べている。

さらに補論の「史料の概要」で、本論文で課題を解明するために中心的に利用・分析したいくつかの史資料の検討を追加している。

学位論文審査結果の要旨

学位審査会は、2003年1月21日、学内審査委員4名、招聘審査委員1名によって行った。審査の結果は以下の通りである。

本論文は、近代日本の資本主義成立・発展の過程において産業発展の遅れた地域とされている鳥取県を事例として、明治・大正期を中心に地域産業経済の変化と地域民衆生活の変容の実態の全国的な位置付けならびに具体的な展開過程を検討したものである。

本論文のとくに注目すべき成果・功績について要点的に指摘すると、次のようにまとめられるであろう。

第一に評価される点は、近代日本の産業革命期とそれ以後の時期に対する主として社会経済史的研究において地域編成論を豊富化したこと、とくに最近の「裏日本形成論」において見落とされてきた地域について新しい研究成果を加えたことである。

第二に評価される点は、鳥取県における当時の郡是・村是資料および類似の資料を探索して詳細に分析を行ったものであるが、その際に「長期経済統計シリーズ」や『鳥取県統計書』その他を用いてデータを客観的かつ厳密に位置付けるように工夫して分析していることと、手堅く論理展開を行っているという地域分析の手法である。

第三に評価される点は、明治・大正期の鳥取県における地域産業経済の変化の過程と地域民衆消費生活の変容の具体的な内容を、農家副業の展開も含めた産業構成の考察や地域差・階層差にも注意した消費生活の考察など、細かい点まで配慮した分析方法と叙述展開がなされていることである。

要約すると、予備審査の際にも評価されたいくつかの成果をさらに詳細・厳密に分析・検討した論理構成と叙述展開とを行って、明治・大正期の鳥取県の社会経済史的研究を深めて行っており、その研究成果は高く評価されるべきものである。

しかし、本論文にも補充したり深めたりしてほしい問題点がないわけではない。その第一は、第2章の鳥取県全体の分析と第3章の鳥取県のいくつかの村々の分析との間に、鳥取県の郡別の分析の章があると地域分析の順序・内容としてより明解になったのではないかということである。第二は、「裏日本形成論」との関連において鳥取県を分析対象としたことの意義について、新しい地域の研究成果を付け加えたというのみではなく近代の鳥取県を対象としたことによってこれまでの「裏日本形成論」とは異なった新たな分析視角や論理展開がなされうるということを、より積極的に主張しても良かったのではないかということである。さらに第三は、郡是・町村是資料の分析方法としては、聞き取りその他の個別具体的な実態確認調査を深めることによって、より詳細な消費生活などの事例分析として活用することが出来るのではないかということである。

もっともこれらの問題点は、主として今後さらに研究を広く展開したり深く拡充するためのアドバイスという側面が強く、本論文が学位論文として十分な成果・内容を持っていることについて審査委員会は全員一致して高い評価を下した。

以上のことから、審査委員会は本論文を博士（経済学）の学位論文として認定することにつき、全員一致で合意した。